

都道府県別賞一等

祖父との約束

福岡県 北九州市立吉田中学校 三学年

園田 蒼太

僕は小学一年生の頃から大好きな野球をしています。きっかけになったのは僕がまだ保育園に通っている頃、祖父がおもちゃのバットとボールとグローブを買ってくれたことです。そして月日が経ち僕は近所の野球チームに入団しました。祖父は野球観戦が大好きで試合の日は必ず来てくれました。しかし新型コロナウイルス感染症の流行で祖父もなかなか外に出られなくなり試合観戦にも足を運ばなくなってしまいました。そうしているうちに祖父のガンが再発して祖父は入院しました。そしてしばらく会えないうちに祖父は祖母を残して亡くなってしまいました。

僕は祖父と、亡くなる一時間前に約束をしました。その約束は祖父からでした。祖父は苦しそうだけど目一杯声を出し僕にこう言いました。

「蒼太、俺と最後の約束をしてくれんか？これからも野球頑張って甲子園に出るんやで。」と。

それを聞いた僕は溢れ出た涙を袖でぬぐい、

「分かった。絶対見ててな。」と答えました。

その約束から二年が経ち、僕は硬式野球チームに入団しました。入団する時に買ってもらった硬式用グローブは祖父が入っていた生命保険からおりたお金を使いました。そのため僕にはグローブに祖父が宿っていると思えて大切にしよう天国で見守ってくれている祖父に誓いました。そこで不意に気になった保険について僕は両親に

「保険って僕やお父さんお母さんも入ってるの。」

と問いかけてみると両親は

「入ってるよ。私達に何かあってもそのお金で野球を続けてほしいからね。」

と答えてくれました。それを聞き両親は僕を第一に考えてくれていると分かりました。

それから僕は以前まで気にかけてなかった保険のコマーシャルを自然と真剣に見るようになっていました。そのコマーシャルや祖父の死から考えさせられ大事なことに気付くことができました。それは「生命保険は多くの人の支えになっている」ということです。僕のような人は全国にたくさんいると思うので保険の良さを知らない人にも知ってもらえたらなと思います。また僕は祖父の

第61回中学生作文コンクール

生命保険からおりたお金で買ったグローブを大切に使い、あの日にした約束を守るために努力を続け一歩ずつ前に進んでいこうと思います。